

中学校 国語

解答についての注意点

- 1 解答用紙は、マーク式解答用紙と記述式解答用紙の2種類があります。
- 2 大問 **1** ～大問 **3** については、マーク式解答用紙に、大問 **4**、**5** については、記述式解答用紙に記入してください。
- 3 解答用紙が配付されたら、まずマーク式解答用紙に受験番号等を記入し、受験番号に対応する数字を、鉛筆で黒くぬりつぶしてください。
記述式解答用紙は、全ての用紙の上部に受験番号のみを記入してください。
- 4 大問 **1** ～大問 **3** の解答は、選択肢のうちから、問題で指示された解答番号の欄にある数字のうち一つを黒くぬりつぶしてください。
例えば、「解答番号は 」と表示のある問題に対して、「**3**」と解答する場合は、解答番号 の欄に並んでいる ① ② ③ ④ ⑤ の中の ③ を黒くぬりつぶしてください。
- 5 間違っただけでぬりつぶしたときは、消しゴムできれいに消してください。二つ以上ぬりつぶされている場合は、その解答は無効となります。
- 6 その他、係員が注意したことをよく守ってください。

指示があるまで中をあけてはいけません。

次の(1)～(5)の問いに答えよ。

- (1) 次の各文のうち、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日 中央教育審議会）のうち、第2部「第2章 各教科・科目等の内容の見直し」で述べられている、国語に関する記述の内容として誤っているものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は 1
- 1 各教科等の指導のねらいを明確にした上で言語活動を適切に位置付けた学校の割合は、小学校、中学校ともに90％程度となっており、言語活動の充実を踏まえた授業改善が図られている。一方で、小学校、中学校ともに依然として教材への依存度が高いとの指摘もあり、更なる授業改善が求められる。
 - 2 これからの子供たちには、創造的・論理的思考を高めるために、「思考力・判断力・表現力等」の「情報を多面的・多角的に精査し構造化する力」がこれまで以上に必要とされるとともに、自分の感情をコントロールすることにつながる「感情や想像を言葉にする力」や、他者との協働につながる「言葉を通じて伝え合う力」など、三つの側面の力がバランスよく育成されることが必要である。
 - 3 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のいずれの学習過程においても、「情報を編集・操作する力」、「新しい情報を、既に持っている知識や経験、感情に統合し構造化する力」、「新しい問いや仮説を立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力」を働かせ、考えを形成し深めることが特に重要である。
 - 4 読書は、多くの語彙や多様な表現を通して様々な世界に触れるため、様々な事象の内容を自然科学や社会科学等の視点から理解することを直接の学習目的とする国語科とは密接な関係にあるといえる。このことから、読書は、国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つである。
 - 5 伝統文化に関する学習については、小・中・高等学校を通じて、古典に親しんだり、楽しんだり、古典の表現を味わったりする観点、古典についての理解を深める観点、古典を自分の生活や生き方に生かす観点、書写を含む文字文化についての理解を深める観点から整理を行い、改善を図ることが求められる。

(2) 次のうち、「中学校学習指導要領」（平成29年3月告示）の「国語」の「第2 各学年の目標及び内容」に示されている、第1学年～第3学年の各学年の目標に関する説明として誤っているものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は 2

1 各学年の目標に示されている(1)の「知識及び技能」に関する目標は、全学年同じである。その「知識及び技能」に関する目標には、中学校を通して、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けること、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにすることが示されている。

2 各学年の目標に示されている(2)の「思考力、判断力、表現力等」に関する目標のうち、考える力については、第1学年及び第2学年では、筋道立てて考える力、第3学年では、論理的に考える力の育成に重点が置かれている。

3 各学年の目標に示されている(2)の「思考力、判断力、表現力等」に関する目標のうち、感じたり想像したりする力については、第1学年では、豊かに感じたり想像したりする力、第2学年では、共感したり想像したりする力、第3学年では、深く共感したり豊かに想像したりする力の育成に重点が置かれている。

4 各学年の目標に示されている(2)の「思考力、判断力、表現力等」に関する目標のうち、自分の思いや考えについては、第1学年では、確かなものにするこゝと、第2学年及び第3学年では、広げたり深めたりすることができるようにすることに重点が置かれている。

5 各学年の目標に示されている(3)の「学びに向かう力、人間性等」に関する目標には、言葉がもつ価値に気付くこと、読書をすること、我が国の言語文化を大切にして思いや考えを伝え合おうとする態度を養うことが系統的に示されている。

- (3) 次の文章は、「高等学校学習指導要領」（平成30年3月告示）の「国語」の「第1款 目標」である。空欄①～④に当てはまる語句として正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

解答番号は 3

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し ① に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる ② に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 生涯にわたる ② における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や ③ を伸ばす。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、 ④ 、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

- | | | | |
|---|---------------------------------|--------|--------|
| 1 | ① 効果的 | ② 社会生活 | ③ 言語力 |
| 2 | ④ 言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり | ① 効果的 | ② 社会生活 |
| 3 | ④ 言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち | ① 効果的 | ② 日常生活 |
| 4 | ④ 言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち | ① 適切 | ② 社会生活 |
| 5 | ④ 言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり | ① 適切 | ② 日常生活 |
| | | | ③ 想像力 |

- (4) 次の文章は、「中学校学習指導要領」（平成29年3月告示）の「国語」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の一部である。あとのア、イの問いに答えよ。

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(4) 第2の各学年の内容の「思考力、判断力、表現力等」の「A話すこと・聞くこと」に関する指導については、第1学年及び第2学年では年間 ① 単位時間程度、第3学年では年間 ② 単位時間程度を配当すること。その際、^a本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする活動を積極的に取り入れるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。

(5) 第2の各学年の内容の「思考力、判断力、表現力等」の「B書くこと」に関する指導については、第1学年及び第2学年では年間 ③ 単位時間程度、第3学年では年間 ④ 単位時間程度を配当すること。その際、^b実際に文章を書く活動を重視すること。

(6) 第2の第1学年及び第3学年の内容の「知識及び技能」の(3)のオ、第2学年の内容の「知識及び技能」の(3)のエ、各学年の内容の「思考力、判断力、表現力等」の「C読むこと」に関する指導については、^c様々な文章を読んで、自分の表現に役立てられるようにするとともに、他教科等における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。

(7) 言語能力の向上を図る観点から、^d外国語科など他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。

ア 空欄①～④に当てはまる数字として正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

解答番号は 4

| | | | | |
|---|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 5 | ① 15 ～ 25 | ② 10 ～ 20 | ③ 30 ～ 40 | ④ 20 ～ 30 |
| 4 | ① 30 ～ 40 | ② 20 ～ 30 | ③ 50 ～ 60 | ④ 40 ～ 50 |
| 3 | ① 30 ～ 40 | ② 20 ～ 30 | ③ 15 ～ 25 | ④ 10 ～ 20 |
| 2 | ① 15 ～ 25 | ② 10 ～ 20 | ③ 50 ～ 60 | ④ 40 ～ 50 |
| 1 | ① 15 ～ 25 | ② 10 ～ 20 | ③ 30 ～ 40 | ④ 20 ～ 30 |

イ 文章中の——部には誤りが含まれているものがある。——部 a～d の語句について正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

解答番号は 5

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 5 | a | b | c | d |
| 4 | a | b | c | d |
| 3 | a | b | c | d |
| 2 | a | b | c | d |
| 1 | a | b | c | d |

(5) 次のうち、「中学校学習指導要領」（平成29年3月告示）の「国語」の「第2 各学年の目標及び内容」ならびに「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」に示されている「書写」に関する説明として正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は 6

A 第1学年においては、「漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと」が身に付くよう指導することが示されている。

B 第1学年及び第2学年における、書写の指導に配当する授業時数は年間10単位時間程度とすることが示されている。

C 第2学年においては、「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと」が身に付くよう指導することが示されている。

D 第2学年においては、「目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと」が身に付くよう指導することが示されている。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| A | A | A | A | A |
| × | × | ○ | ○ | ○ |
| B | B | B | B | B |
| × | ○ | × | × | ○ |
| C | C | C | C | C |
| ○ | × | × | ○ | ○ |
| D | D | D | D | D |
| ○ | ○ | ○ | ○ | × |

2

次の文章を読んで、あとの(1)～(6)の問いに答えよ。なお、設問の都合で本文の段落にI～Xの番号を付してある。

著作権保護の観点により、本文を掲載いたしません。

著作権保護の観点により、本文を掲載いたしません。

出典…『芸術学事始め―宇宙を招くもの』小林道憲 中央公論新社
99ページ2行目から102ページ15行目まで

(小林道憲 『芸術学事始め―宇宙を招くもの』より)

(1) 部A、Cのカタカナを漢字に直すとき、同じ漢字を含むものはどれか。1～5からそれぞれ一つ選べ。解答番号は、Aは 、Bは 、Cは

A ヘンボウ

- 1 カイボウを行う。
- 2 ゼンボウが明らかになる。
- 3 危急ソンボウの秋。とき
- 4 シュクボウを果たす。
- 5 ボウトウの挨拶。

B バイカイ

- 1 原点にカイキする。
- 2 カイゴウに出席する。
- 3 カイコンの情が起ころ。
- 4 作品をコウカイする。
- 5 ヤツカイな問題の発生。

C シツヨウ

- 1 物事にコシツする。
- 2 シツギを繰り返す。
- 3 シツゲンを繰り返す。
- 4 シツセキを受ける。
- 5 シツナイで作業する。

(2) 筆者が、陶芸の例を挙げて説明している内容として最も適切なものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 作品の制作において、芸術家は自然の創造力に身をまかせるだけの存在であり、素材だけが仕上がりを決定する。
- 2 作品の制作において、芸術家が備えた感性が鋭すぎるため、素材の個性を最大限に引き出すことができない。
- 3 作品の制作において、芸術家の想像力には限りがあるうえ、自らの構想力を素材に強制することは難しい。
- 4 作品の制作において、芸術家には真の意味での技術が不足しており、芸術家は素材や条件に支配されている。
- 5 作品の制作において、芸術家の個性こそが最も重視されるものであり、素材の特性は大きな問題ではない。

(3) 本文中で述べられている「芸術とは技術である」といえる内容の説明として最も適切なものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 芸術は、石や土などと対話をしながら、自分の経験から生まれた構想を形にする行為であるという意味で、芸術は技術であるといえる。
- 2 芸術は、自然の素材の特性を活かしながら石材や木材といった素材を改変し、形を生み出していく行為であるという意味で、芸術は技術であるといえる。
- 3 芸術は、素材を芸術家自身の手だけでなく、道具も用いて変えていく行為であるという意味で、芸術は技術であるといえる。
- 4 芸術は、自然の素材を加工し、作者の技巧を最大限に引き出す行為であるという意味で、芸術は技術であるといえる。
- 5 芸術は、素材と形を一体化させ、作者の想像力を具現化していく行為であるという意味で、芸術は技術であるといえる。

(4) —部①とあるが、どのような意味で未完成であるというのか。その説明として最も適切なものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は 12

- 1 芸術は、創作活動を行うほどその意図や計画が変わることがあるという意味。
- 2 芸術は、作品を仕上げるほど技術によって自然の創造を学んでいくという意味。
- 3 芸術は、創作活動を行うほど創作の本質がわかるようになっていくという意味。
- 4 芸術は、優れた作品の創作であるほど人間の寿命の中では終わらないという意味。
- 5 芸術は、自然の上に形を刻むことで作るうとしてしているものを自覚していくという意味。

(5) 段落Ⅵ・Ⅶで用いられている例示に関する説明として最も適切なものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は 13

- 1 円空とミケランジェロの例は、素材の中に完成形を見出せるほど、芸術作品においては素材こそが構想の源泉であることを述べるための例示である。
- 2 ミケランジェロの例は、素材に精通し制作を行う過程よりも完成した瞬間にこそ芸術作品としての意味があることを述べるための例示である。
- 3 ミケランジェロの例は、芸術作品の制作においては、素材と形の一体化のために道具を効率的に使う必要があることを述べるための例示である。
- 4 円空の例は、芸術において素材と形は分けて考えることが難しく、素材を熟知する必要があるということを示すための例示である。
- 5 円空の例は、芸術においては制作の過程の中で、素材と形が一体化することで新しい作風が生み出されるということを示すための例示である。

(6) この文章の構成・展開に関する説明として最も適切なものはどれか。1～5から一つ選べ。

解答番号は 14

- 1 はじめに芸術とは何かについて明確に定義づけてから、定義した点について自らの経験をもとに検討し見解を示したうえで、最後に芸術家の歩んできた歴史について述べている。
- 2 はじめに芸術とは何かについて筆者の主張を提示したうえで、筆者が主張する点について詳述するとともに新たな視点を加え、最後に芸術の奥深さについて述べている。
- 3 はじめに芸術の本質について複数の点から問題を提示し、それぞれの問題について総合的に判断し結論づけたのち、最後に自然と人間の対比を提示している。
- 4 はじめに芸術の本質についての結論を述べ、結論をより強固にするための具体的な証明を示し、最後に芸術の連続性について述べている。
- 5 はじめに芸術の本質について一般論を述べ、具体的な例を交えて問題点について詳述し、最後に新たな見解を提示している。

3 次の文章を読んで、あとの(1)～(7)の問いに答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。

著作権保護の観点により、本文を掲載いたしません。

出典：講談社学術文庫『孟子 全注釈』宇野精一（訳）講談社
75ページ13行目から16行目まで

（『孟子』より）

〔注〕 孟子：孟軻のこと。

湯：殷の王。

葛：国名。

文王：周の王。

昆夷：国名。

大王：文王の祖父。

獯鬻：国名。

句踐：越の王。

吳：国名。

(1) 部①の書き下し文として最も適切なものはどれか。1～5から一つ選べ。

解答番号は 15

- 1 「隣國に交はること道有るかな。」と。
- 2 「隣國に交はること道有らんや。」と。
- 3 「隣國に交はるに道有らんかな。」と。
- 4 「隣國に交はるに道有らんか。」と。
- 5 「隣國に交はるに道有るか。」と。

(2) — 部②に返り点を施したとき、最も適切なものはどれか。1～5から一つ選べ。

解答番号は 16

- 1 惟仁者爲能以大事_レ小。
- 2 惟仁者爲能以大事_下小_上。
- 3 惟仁者爲能以大事_レ小。
- 4 惟仁者爲能以大事_レ小。
- 5 惟仁者爲能以大事_下小_上。

(3) — 部③は『詩経』に所収されている詩である。『詩経』を含む経書の総称「四書五経」に含

まれないものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は 17

- 1 礼記
- 2 大学
- 3 論語
- 4 中庸
- 5 文選

(4) — 部④の解釈として最も適切なものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は 18

- 1 立派であるなあ、先生の言葉は。
- 2 広くあてはまるなあ、古典の言葉は。
- 3 言い過ぎではないのか、詩の言葉は。
- 4 大げさではないのか、先人のその言葉は。
- 5 奥深いなあ、先代の王の言葉は。

(5) — 部⑤とあるが、本文中では誰のことか。1～5から一つ選べ。解答番号は 19

- 1 国民
- 2 齊の宣王
- 3 齊の宣王の臣下
- 4 齊の先代の王
- 5 孟子

(6) 次の各文のうち、本文中の表現効果について説明したものととして正しいものを○、誤っているものを×としたとき、最も適切な組合せはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は 20

A 「湯」「文王」「大王」「句踐」の例を用いて、自国と隣国との現状をわかりやすく伝えようとしている。

B 「智者」のあり方と「仁者」のあり方とを対句で表現することによって、君主のあり方についてわかりやすく伝えようとしている。

C 「詩」の一部を引用することで、国を守っていく君主としてのあり方に関する主張を補強しようとしている。

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | A | ○ | B | ○ | C | × |
| 2 | A | ○ | B | × | C | × |
| 3 | A | × | B | ○ | C | ○ |
| 4 | A | × | B | ○ | C | × |
| 5 | A | × | B | × | C | ○ |

(7) 次の文章は、孟軻についてまとめたものである。空欄A、Bに入る語として最も適切なものはどれか。それぞれ1～5から一つ選べ。

解答番号は、Aは 、Bは

『孟子』は、孟軻の言をその弟子たちがまとめたものとされる。孟軻は、の「仁」をうけついで、そこに「義」を加え、「仁義」の道徳を定義した。孟軻の説いた「」とは、「仁義」の道徳に基づいた政治のことである。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|----|---|----|---|----|---|------|
| A | 1 | 韓非子 | 2 | 孔子 | 3 | 荀子 | 4 | 莊子 | 5 | 墨子 |
| B | 1 | 王道 | 2 | 兼愛 | 3 | 節儉 | 4 | 治人 | 5 | 無為自然 |

4

次の文章は『古今和歌集』の「仮名序」の一部である。これより前の部分では、歌の本質や歌の成立状況、歌の批評が述べられており、本文はその続きの部分である。これを読んで、あとの(1)～(6)の問いに答えよ。

著作権保護の観点により、本文を掲載いたしません。

出典…新編日本古典文学全集11 『古今和歌集』
小沢正夫、松田成穂（校注、訳者） 小学館
28ページ15行目から30ページ13行目まで

（『古今和歌集』より）

- (1) — 部①、②の助動詞について、基本形、活用形、本文中での文法的意味をそれぞれ答えよ。
- (2) — 部③は、歌でよく使われる表現である。「明日香河の瀬になる」とは、本文中においては、何がどのようなようになっていくことをたとえたものか。次に示した歌を参考にして、説明せよ。

著作権保護の観点により、本文を掲載いたしません。

出典…新編日本古典文学全集11 『古今和歌集』
小沢正夫、松田成穂（校注、訳者） 小学館 354ページ4行目

- (3) — 部④とは、具体的にどのような時をさすのか。説明せよ。

(4) — 部⑤の解釈として最も適切なものはどれか。ア～エから一つ選べ。

ア 歌の本質を理解している人たちは、『古今和歌集』を読みふけり、自身が生きている今の世に何も関心を示さないだろう。

イ 歌の本質を理解している人たちは、『古今和歌集』が編まれた今の世に憧れないことがあるうか。

ウ 撰者たちは、『古今和歌集』が完成したことで、今の世に興味をおぼえなくなっただろう。

エ 撰者たちは、『古今和歌集』を苦勞して編んだ今の世を忘れないことがあるうか。

(5) 次の各文のうち、本文中の表現について説明したものとして、適切でないものはどれか。ア～エから一つ選べ。

ア — 部Aに書かれている、「波」、「八洲」は、天皇の慈愛をたとえた表現である。

イ — 部Bに書かれている景物を用いて、春夏秋冬それぞれの季節を表現している。

ウ — 部Cには、撰者たち自身の歌を謙遜する思いが表現されている。

エ — 部Dには、途絶えることなく、あり続けるさまが表現されている。

(6) 『古今和歌集』のように、天皇や上皇の命によって編纂された歌集のことを何というか。漢字で答えよ。

5

次の文章は、夏目漱石の『永日小品』のうち、「蛇」の全文である。
これを読んで、あとの(1)～(6)の問いに答えよ。なお、設問の都合で本文の上に行数を付してある。

著作権保護の観点により、本文を掲載いたしません。

出典…新潮文庫『文鳥・夏目漱石』夏目漱石 新潮社
69ページ10行目から72ページ12行目まで

著作権保護の観点により、本文を掲載いたしません。

(夏目漱石 『永日小品』より)

〔注〕 黒節： 蹠くろふしのこと。

(1) 〓部A、Cの漢字は読みを答え、カタカナは漢字に直せ。

(2) 〓部①、②の本文中における意味として最も適切なものはどれか。次の各群のA、Cからそれぞれ一つ選べ。

①「調子を取る」

- A 勢いをつける
- I 上体をひねる
- U 体勢を崩す
- E バランスをとる
- O リズムをとる

②「うつらうつらと揺いて」

- A ゆらゆらとからみあいながら動いて
- I きらきらと輝きながらゆれ動いて
- U よく見えるようにゆれ動いて
- E ゆっくりとゆれ動いて
- O とてもはやく動いて

(3) ——部③とあるが、この言葉からうかがえる叔父さんの心情は、何に對するどのような心情か。ただし、——部③の発言に至るまでの状況の変化についてもふれること。

(4) 次の各文のうち、——部④「蛇」にあたる対象をさす表現について説明した文として適切でないものはどれか。ア～エから一つ選べ。

ア 本文32行目「色の変った模様」という表現は、濁った水の中で一瞬見えた「蛇」の存在を描いた表現であり、読み手に「色の変った模様」をもつ存在が何であるか、関心を持たせる効果があるといえる。

イ 一瞬見えた長さの感じから、本文33行目「大きな鰻」だと思ったものを、本文35行目「長いもの」と、再び表現を曖昧にすることで、この対象が鰻ではないことを暗示する効果があるといえる。

ウ 本文35行目「重たい縄」という表現は、本文33行目「大きな鰻」だと思っていたものの太さや長さを描写するための表現であり、「大きな鰻」だと思っていたものが大物であることを強調する効果があるといえる。

エ 本文36行目「鎌首」という表現は、「蛇」の頭に焦点をあてた表現であり、後の「覚えていろ」という台詞が「蛇」の言葉であることを強調する効果があるといえる。

(5) この一話全体の構成・表現上の特徴について説明した文として適切でないものはどれか。ア～エから一つ選べ。

ア 本文13行目「蜿蜒」という表現は、どこまでも続く渦の様子を、本文16行目「ざあっ」は激しく降る雨の様子を強調した表現になっている。

イ 本文15行目「茶壺の蓋の様に」という表現によって、空一面が雨雲に覆われており、太陽の光が一切入ってこない様子が強調されている。

ウ この一話は、三人称視点で描かれ、夢幻、怪異の雰囲気を漂わせた構成になっている。

エ この一話は、誰がどこにいるのか具体的に示されないまま始まり、その後、ある状況が展開されるといふ描かれ方がされている。

(6) 次の作品のうち、夏目漱石の作品でないものはどれか。ア～カからすべて選べ。

ア 虞美人草 イ 金色夜叉 ウ 五重塔 エ 三四郎
オ それから カ 明暗

